

(12) 急傾斜地崩壊対策の考え方について

建設省土木研究所 安 江 朝 光

崖崩れによる災害が急増し、その対策は緊急の課題になってきている。この対象は大部分自然斜面であり、地盤の不均一性、異方性に加えて降雨性状、風化等の要素がからみ、技術的判断に苦しみ場合が多い、崩壊の実態調査、試験地での調査等で得られた資料をもとに急傾斜地崩壊対策の考え方について述べる。

(13) 斜面安定度の予測手法とその限界

鉄道技術研究所 小 橋 澄 治

災害の研究の最も重要な部分は災害発生を予測することである。予測はいつ、どこで、どの程度を明らかにしなくてはならない。

斜面崩壊については、どこに起るかが、最大の問題である。鉄道沿線に分布するほり大な数の斜面のうち、どれが危険かを判別することは非常に難しい問題である。これは崩壊発生メカニズムがすべて明らかにされていないこと、かりにそれがわかったとしてもほり大な数の斜面をくわしく精査することは不可能である。

したがってどうしてもなるべく簡易な方法での一次的ふるいわけ、そこで得られた危険斜面を更に調べて危険度のランクづけをするという段階的な方法をとらなくてはならないであろう。

われわれは現在まで種々の観点から予測法を検討してきた。それらはいずれも試行的なものであり、系統化されていないし、その効果の限界もあいまいである。ここではそれらを一応整理し、今後の方向を考えたいと思う。

以下の観点を中心に考えてみたい。

- 1) 鉄道斜面災害の形態と予測すべき精度。
- 2) 空中写真利用の効果と限界、今後の方向。
- 3) 切取のり面採点表の経過と今後の発展。
- 4) 統計的手法の限界。それを補うもの。